

健診 トピックス

子宮頸がん検診に新たな流れ

子宮頸がんは、
20代から40代前半の
若年層で急激に
増えています

若い世代の子宮頸がん予防に
「ヒトパピローマウイルス（HPV）検査」の導入が
検討されています。

現在行われている 子宮頸がん検診

地域での子宮がん検診は老人保健法により昭和58年に始まり、30歳以上に年に1回の子宮頸部細胞診（一部では体部も実施）を実施してきました。

その後、平成16年には、20歳以上に、原則2年に1度の受診へと変わり、また、今年度からは名称も「子宮がん検診」から「子宮頸がん検診」へと変わり実施されています。

※子宮頸部細胞診・・・子宮頸部の表面から専用のブラシでこすり取った細胞を顕微鏡で調べる診断。

「子宮頸がん」 発生の原因と背景

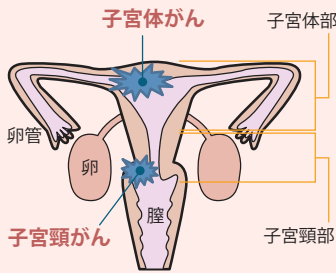
子宮頸がんの発がんには、ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染が強く関与していることは、最近では多くの方々にも知られるようになりました。高齢になるとともに増えてくる他のがんと違い、子宮頸がんが若年層で増えてきているのは、若い世代にヒトパピローマウイルス（HPV）の性感染の機会が多いためと考えられています。

若い世代の子宮頸がん 予防のために

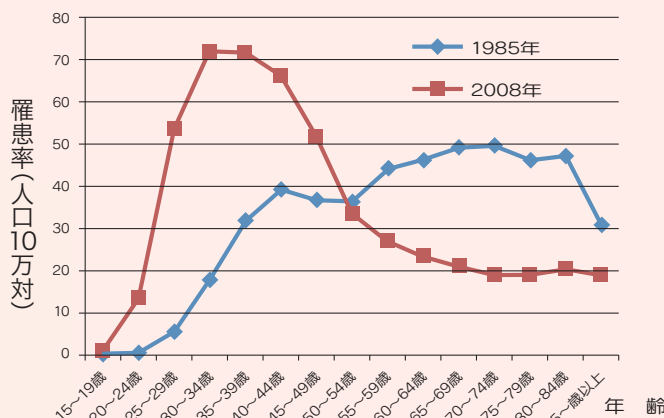
このような、子宮頸がん発生の背景の中、国では、ヒトパピローマウイルス（HPV）検査の導入が検討されています。HPVはどこにもある、ありふれたウイルスですが、子宮頸がんの原因になるのは数種類のウイルスです。感染しても多くの場合は自然に排除されますが、排除されずに感染が持続すると、子宮頸がんの前がん病変になることがあります。

HPV検査は、子宮頸部にこのウイルスの存在の有無をみる検査です。

陽性の場合、陰性になるまで毎年検診を受けることで、がんを予防あるいは早期に発見することができます。



子宮頸がん(上皮内がん含む):年齢階級別罹患率



出典：「国立がん研究センターがん対策情報センター」集計データを基に加工

**職場・学校などへの
出前講座承ります**

内容 ● がんの予防
生活習慣病の予防について

時間 ● 30分程度から

料金 ● 無料から

講師 ● 保健師など

—ご希望の場合はご連絡ください—

連絡先 ● 0952-25-2320
企画渉外班まで